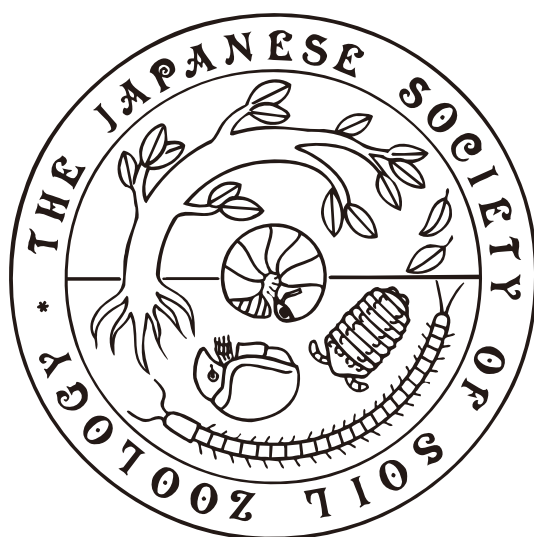


日本土壌動物学会第 42 回大会

講演要旨集

Abstracts of the 42nd Annual Meeting of
the Japanese Society of Soil Zoology



2019年5月17日～20日

沖縄国際大学厚生会館 4階ホール（沖縄県宜野湾市）

日本土壌動物学会

The Japanese Society of Soil Zoology

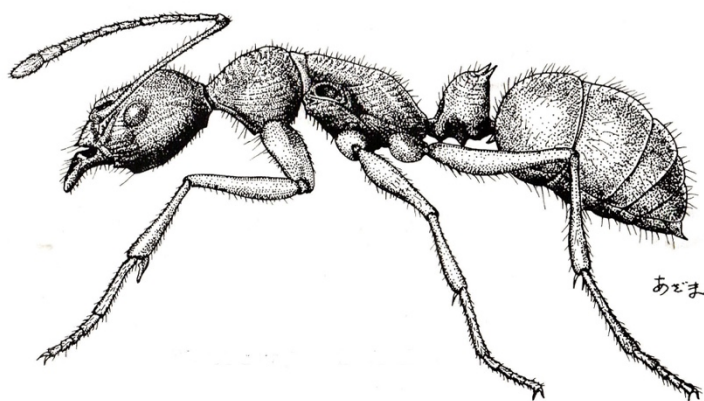
第 42 回沖繩大会へようこそ

大会長 安座間安史

会員諸志の皆さま、日本土壌動物学会第 42 回沖繩大会へのご参加心より歓迎申し上げます。実は本大会開催の連絡を受けた際、私は少々驚きを隠せませんでした。前回(第 31 回)の沖繩開催から 11 年しか経ておらず、私が現役の間に 2 度目の沖繩開催はないだろうと勝手に思い込んでいたからです。見事に虚を突かれた感がありますが、地元の若手会員の皆さんの積極的な姿勢に押され、再度の大会長として皆さまをお迎えすることにしました。

前回の沖繩大会から 11 年の間に、県外・国外から多くの若い研究者が本県を訪れるようになり、トビムシやササラダニ類に加え多足類やミミズ類などの分類学的研究が大分進んできたように感じます。またアリやシロアリ類では行動・生態的研究も進み本大会のシンポジウムでは最近の研究成果が報告されることになっています。今大会でも会員諸志の最新の研究発表やシンポジウム、そして地元の中・高校生によるポスター発表などを通して、多くの新進気鋭の研究者同士で情報交換を深めていただき、それをキッカケに我が国で唯一の湿潤亜熱帯に属する沖繩の土壌動物の研究が更に進展することも期待しています。

最後になりますが、大会後のエクスカージョンでは沖繩島北部にある琉球大学附属与那演習林で夜と昼の観察会を企画しています。今回は地元の昆虫や植物に詳しいスタッフも同行する予定ですので、会員の皆さまの飽くなき興味・関心へも十分に対応できるものと考えています。



中琉球(奄美大島、徳之島、久米島、沖繩島)の島々にもみ分布する
トゲオオハリアリ(*Diacamma* sp.)

日本土壌動物学会第 42 回大会プログラム

大会長 安座間安史 大会運営委員長 齋藤星耕
大会運営委員 萩野航, 唐澤重考, 中森泰三, 田之岡綾花

会 期: 2019 年 5 月 17 日 (金) ~ 20 日 (月)

会 場: 沖縄国際大学 厚生会館 4 階ホール

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目 6 番 1 号

大会日程:

5 月 17 日 (金) 於 てんぶす那覇 会議室 (那覇市牧志 3 丁目 2 番 10 号)

18:00~ 編集委員会

19:30~ 評議員会

5 月 18 日 (土) 於 沖縄国際大学 厚生会館 4 階ホール

09:30~ 受付

10:00~ 開会挨拶

10:15~ 一般講演 (口頭)

12:00~ 昼休み

13:00~ 一般講演 (口頭)

14:00~ ポスター講演

16:00~ 公開シンポジウム

18:00~ 参加者写真撮影

18:30~ 懇親会

5 月 19 日 (日) 於 沖縄国際大学 厚生会館 4 階ホール

09:00~ 一般講演 (口頭)

10:30~ 学会総会 (~12:00)

13:00~ 研究会 (ミミズ研究談話会、トビムシ研究会)

於 沖縄国際大学 3 号館 5 階

18:00~ エクスカーション

於 琉球大学与那フィールド (~20 日 (月) 13:00)

発表要領:

【口頭発表】

講演時間は一題 15 分（12 分講演、3 分質疑応答）です。PowerPoint を使用した形式で行います。ファイルを USB メモリーに記録し受付にお持ちください。発表前に事務局で用意した PC にて動作確認をお願いいたします。事務局では Windows 10 の PC を用意いたします。PowerPoint のバージョン 2016 を用意いたします。Mac での発表をご希望される方はご自分の PC と接続用のアダプターをご持参ください。

【ポスター発表】

発表時間（コアタイム）は、18 日（土）の 14:00～16:00 です。ポスターの貼りだしは当日 9:00 から可能です。画鋏などは事務局で用意します。19 日（日）の 13:00 までに回収してください。残されたポスターについては事務局で破棄します（情報漏洩防止処理はいたしかねます）。

優秀発表者に対して、大会から賞を授与いたします。ポスター賞の授与式は 19 日（日）の総会にて行います。19 日 10:30 までに、受賞者のポスターに受賞の旨を掲示します。確認の上、授与式にご参加願います。

懇親会:

18 日（土）に大会会場において行います。出し物として、沖縄国際大学・琉球芸能文学研究会の皆様による演舞を予定しております。沖縄らしいお料理も準備しております。

昼食:

各自でおとりください。会場の周辺にお店、スーパー、コンビニがございます。

大会会場へのアクセス:

【那覇市内から】モノレール「県庁前」駅下車、徒歩 3 分のバス停「県庁北口」から乗り換え（所要時間 50 分～1 時間、バス運賃 570～610 円）：

- ・ 98 琉大線、110 長田具志川線 … バス停「沖縄国際大学前」下車
- ・ 21 新都心具志川線、24 那覇大謝名線、27 屋慶名線、90 知花線… バス停「長田」下車、徒歩 7 分

【那覇空港から】国内線旅客ターミナル前から バス 25 普天間空港線（30～40 分間隔）乗車、バス停「長田」下車、徒歩 7 分（所要時間 80 分、運賃 610 円）

【自動車】自家用車・レンタカーでお越しの方は、学生用駐車場に駐車ください。

【タクシー】那覇市内から所要時間 40 分、運賃 2500 円。乗り合いでの利用がお奨めです。

大会事務局連絡先：

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目 6 番 1 号

沖縄国際大学経済学部 齋藤星耕 気付

日本土壌動物学会第 42 回大会事務局

Tel: 098-893-3937 Fax: 098-893-8934 Mobile: 090-6592-9216 (齋藤)

E-mail: jssz2019okinawa@gmail.com

企画案内

公開シンポジウム

「アリとゴキブリ（シロアリ）の生物学」

日時：2019年5月18日（土）16:00～18:00

場所：沖縄国際大学厚生会館 4階ホール

内容：

アリとゴキブリ（含シロアリ）は、種多様性・バイオマスが大きく分解者や捕食者として重要な生態系機能を担っており、また、社会性など複雑な個体間相互作用を進化させるなど、様々な興味深い生物学的側面を有するため、古くから精力的に研究されてきた。しかし、このように長い研究の歴史を持つにも関わらず、未だにこれら動物を対象とした数多くの新発見がなされるなど、アリとゴキブリの研究対象としての魅力は増すばかりである。

一方で、近年の本学会大会では、アリやゴキブリに関する発表は決して多くはない。そこで、本シンポジウムでは、沖縄在住のアリとゴキブリの研究者を招き、これら動物に関する最新の研究について講演して頂くことを目的とした。

講演者：

金城 幸宏（沖縄科学技術大学院大学）

徳田 岳（琉球大学熱帯生物圏研究センター）

杉尾 幸司（琉球大学大学院教育学研究科）

吉村 正志（沖縄科学技術大学院大学）

世話人：

唐沢 重考（鳥取大学）

齋藤 星耕（沖縄国際大学）

企画案内

第 20 回 ミミズ研究談話会総会

土壌動物学会に合わせて、今年もミミズ研究談話会の総会を開催いたします。総会の前に 2 題の講演を予定しております。申し込みは不要で談話会会員以外の方も参加出来ますので、ご興味がある方は是非ご参加ください。

日時：2019 年 5 月 19 日（日）13 時～15 時

場所：沖縄国際大学 3 号館 5 階 3-503 教室

講演 1 「琉球列島のミミズ（これまでの研究史、現状、これから）」

（安座間安史 名護市）

講演 2 「日本のミミズの分布」

（上平幸好 函館市）

トビムシ研究会 第 4 回

本年度も第 4 回の会合は、大会会場である沖縄国際大学のお部屋をお借りし、下記の様な内容でおこないたいと考えております。

日時：2019 年 5 月 19 日（日）13 時～15 時

場所：沖縄国際大学 3 号館 5 階 3-504 教室

内容：

1. DNA バーコーディング時代における日本産トビムシのアイデンティティ（中森泰三）
2. トビムシのトレイトデータベース拡張と、現段階のデータの利用法（菱拓雄）
3. 今後の研究の進め方等についてのテーマ別ディスカッション
4. 総括

今回は、トビムシの分類及び分野で、データベース作成を進行中のテーマについて、2 名の方に話題提供頂きます。話題提供後、それぞれのテーマに分かれてワーキンググループを形成していただき、今後の研究の進め方、役割分担などを決める議論を行い、最後にそれぞれのグループからの報告をし、2 グループでの協力内容等について相談する総括をおこないたいと考えております。ご専門でない方でも、研究対象種の採集など、様々なご協力をお願いできるかも知れません。皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

企画案内

エクスカージョン

中琉球特有の自然林が残り世界自然遺産にも推薦されている沖縄島北部を中心としたコースです。初日（5/19）の晩は、与那演習林内を流れる与那川の溪流沿いの林道散策で沖縄島固有の両生・ハ虫類に加えヤンバルオオフトミミズや陸生ホタルなどの観察が期待できます。翌日（5/20）の午前中は沖縄島北部の最高峰である与那覇岳（503m）の登山道を散策し、繁殖期を迎えたノグチゲラやヤンバルクイナなどの生息するイタジイ自然林を観察します。

場所：琉球大学農学部附属 亜熱帯フィールド科学教育研究センター 与那フィールド
〒905-1427 沖縄県国頭郡国頭村字与那 685

日程：5月19日（日）～20日（月）

19日（日）

18:00 宿舎集合・夕食

19:00 ヤンバルの自然学習会（於 講義室）

20:00 夜間観察会（与那演習林林道沿い）

22:00 自由時間（飲み会 etc.）

20日（月）

09:00 宿舎出発

09:30 与那覇岳登山道散策

13:00 現地解散 希望者は那覇市内及び空港まで送迎

食事について：19日（日）の夕食は事務局で準備します（参加費に含まれます）。20日（月）の朝食、昼食については、移動途中のスーパーマーケット・コンビニ等で各自ご調達下さい。

参加費：現地徴収（参加人数により若干変動します）

大会事務局の送迎を申し込まれた方 6000円程度

レンタカー等によりご自身で移動される方 3000円程度

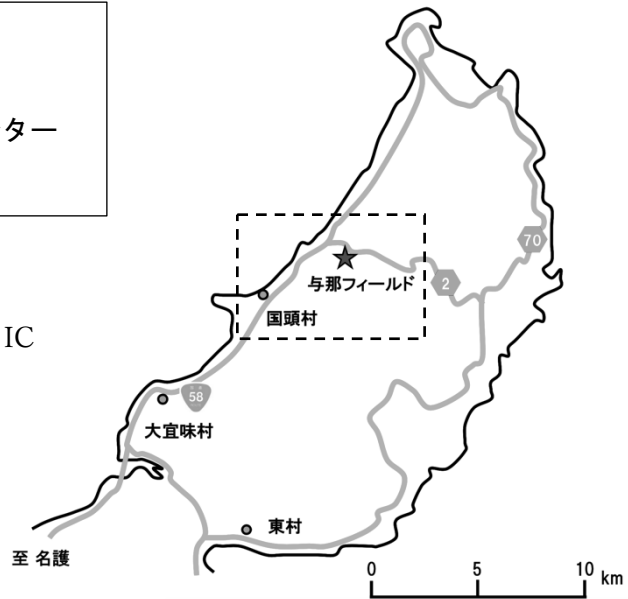
大会事務局による送迎をうけられる方は、19日（日）15:30に、厚生会館入り口に集合してください。

エキスカーション会場へのアクセス:
 琉球大学農学部附属
 亜熱帯フィールド科学教育研究センター
 与那フィールド

【那覇空港からのアクセス】

那覇空港⇒豊見城・名嘉地 IC or 那覇 IC
 ⇒(沖縄自動車道)⇒許田 IC (名護市)
 ⇒与那フィールド

所要時間：約2時間半

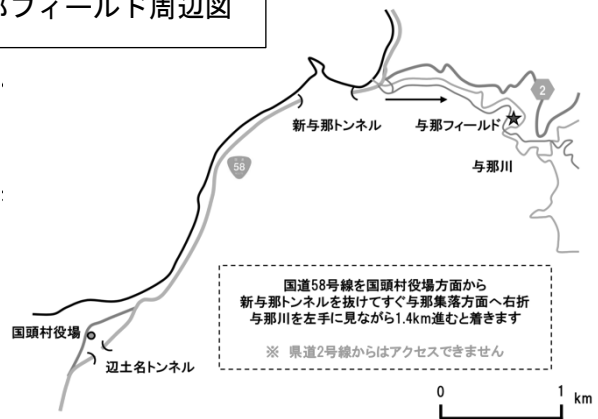


与那フィールド周辺図

【沖縄国際大学からのアクセス】

沖縄国際大学⇒西原 IC⇒(沖縄自動車道)
 ⇒許田 IC (名護市) ⇒与那フィールド

所要時間：約2時間



- ① 国頭村の町を抜け、新与那トンネルを出たらすぐに右折します。
- ② そのまま道沿いに進むと、左手に与那フィールドが見えてきます。



※ 国頭村役場周辺に「国頭スーパー」、58号沿いに「ファミリーマート」があります。

一般講演（口頭）

5月18日（土） 10：15～12：00

時間	番号	発表者	演題	座長
10:15-10:30	O-1	藤井佐織	ハビタットの異質性がトビムシ群集の機能の多様性を高める：枯死木分解実験サイトを用いた検証	
10:30-10:45	O-2	菱拓雄	環境・空間条件によるトビムシ群集のサイズ選択の地域性	吉田智弘
10:45-11:00	O-3	長谷川元洋	ヒノキ人工林と落葉広葉樹林における土壌ブロックの交換がトビムシ群集に与える効果-2年目の結果-	
11:00-11:15	O-4	吉田智弘	亜熱帯性湿地林の樹上部と林床における大型土壌動物によるリター分解	
11:15-11:30	O-5	豊田鮎	ニホンイノシシの土壌生態系への依存度の季節変化	
11:30-11:45	O-6	葛西弘	奈良県春日山におけるシカ柵内外の土壌動物群集の差異	金田哲
11:45-12:00	O-7	金子信博	シカの食害によって土壌の移動が生じている斜面における土壌動物群集と土壌環境の関係	

一般講演（口頭）

5月18日（土） 13：00～14：00

時間	番号	発表者	演題	座長
13:00-13:15	O-8	松本直幸	樹状性エゾアヤトビムシの生活史とウロコの変化	
13:15-13:30	O-9	吉野広軌	ヒメフナムシに寄生するセンチウの発見	
13:30-13:45	O-10	中森泰三	殺虫菌スギエダタケとトビムシの相互作用の地理的な違い	佐藤大樹
13:45-14:00	O-11	柴田康平	ミミズの地表活動と月齢との関係	

ポスター講演（中高生）

5月18日（土） 14：00～16：00

番号	発表者	演題
PS-1	脇村涼太郎	冬季に地中トラップで得られた節足動物群集
PS-2	嶺井琉	沖縄本島で捕獲したサソリモドキの調査 君はタイワンサソリモドキか？アマミサソリモドキか？
PS-3	秀島徳亮・町田幸大・野原大夢・ 知念晃治郎・桃原千太	沖縄島南部海岸林（具志頭海岸林）のアリの生息状況調査
PS-4	石井千啓・上地明斗・當山全翔	辺土名高校内のアリ相 IV

ポスター講演(一般)

5月18日(土) 14:00~16:00

番号	発表者	演題
P-1	佐藤大樹	ツクツクボウシタケの発消長と宿主特異性について
P-2	片岡万柚子・中森泰三	チビアミメイボトビムシに対するシロジクキモジホコリ変形体の反応
P-3	清水伸泰	コナダニ類における多機能フェロモン
P-4	大平敦子・中森泰三・矢野倫子	キボシアオイボトビムシ類の体の配色と配色の異なる集団間の遺伝的距離について
P-5	田中草太・安藤麻里子・小嵐淳	福島原発事故後のミミズにおける放射性セシウムの動態と放射性炭素同位体分析を応用した環境動態調査の可能性
P-6	正角隆治・森岡一幸	長時間自動観察システムを用いたダンゴムシの移動特徴の分析
P-7	Toru HAMAMOTO・Meki CHIRWA・Imasiku NYAMBE・Yoshitaka UCHIDA	アフリカ・ザンビアの農地開発がもたらす土壤生物性と土壤肥沃度の変化
P-8	Toru HAMAMOTO・Nhamo NHAMO・Chikoye DAVID・Yoshitaka UCHIDA	アフリカ・ザンビア農地土壤における土壤動物が炭素蓄積に及ぼす影響
P-9	伊藤崇浩・浅野亮樹・趙鉄軍・柴田誠・千代恵佑・伊藤豊彰・山中亮・阿部憲一	リビングマルチを利用したナスの有機栽培における土壤線虫群集
P-10	重田竜耶・橋本みのり	落葉分解者の分類群の違いによる物質循環への貢献度の比較
P-11	上平幸好	北海道本島における陸生貧毛類の種類相とその分布
P-12	伊藤雅道・田村淳	神奈川県森林地帯3地域の大型陸生貧毛類相と未記載種
P-13	藤本将徳・葛西弘・澤島拓夫	博物館相当施設展示温室における外来生物相
P-14	一澤圭	日本産オオウロコトビムシ類 <i>Lepidosira</i> について
P-15	須摩靖彦	ニッポントゲトビムシの腹部第5節の感覚長毛について
P-16	湯本勝洋	土壤動物の教材化～オカダンゴムシを使った幼稚園での体験学習プログラムの実践～
P-17	原口岳・長谷川元洋	土壤小型節足動物の同位体分析を目的としたツルグレン装置の改良

公開シンポジウム「アリとゴキブリ(シロアリ)の生物学」

5月18日(土) 16:00~18:00 世話人: 唐沢重考・齋藤星耕

番号	発表者	演題
S-1	唐沢重考	趣旨説明: アリとゴキブリ(シロアリ)の生物学
S-2	金城幸宏	ゴキブリ目昆虫における共生系の置き換わり
S-3	徳田岳	シロアリと腸内微生物による木材消化の仕組み
S-4	杉尾幸司	コウシュンシロアリ <i>Neotermes koshunensis</i> の生態 沖縄島を北限に生息する乾材シロアリの群飛や分布の特性
S-5	吉村正志	蓄積こそが力なり - ヒアリ対策の土台を支えるものたち -

一般講演（口頭）

5月19日（日） 9:00~10:30

時間	番号	発表者	演題	座長
9:00-9:15	O-12	岡田浩明	植物寄生性線虫の増殖性を評価するための根箱の使用条件	
9:15-9:30	O-13	金田哲	土壌生息性ミミズの飼育法の改良:低温処理効果と培養土再利用について	橋本みのり
9:30-9:45	O-14	岸本圭子	畦畔管理様式の違いが土壌動物に与える影響	
9:45-10:00	O-15	島野智之	南西諸島から見つかった様々な土壌動物の未記録種（ゴキブリ類・クモガタ類など）	
10:00-10:15	O-16	岸本太郎	小笠原諸島南島の大型土壌動物群集	伊藤雅道
10:15-10:30	O-17	唐沢重考	伊豆諸島におけるワラジムシ類の分布 コシビロダングムシ相の形成史に注目して	

受賞講演

5月19日（日） 10:30~

番号	発表者	演題
A-1	菱拓雄	トビムシの愛すべき点はどこにあるのか
A-2	皆越ようせい	ミミズに導かれて

謝辞：

本大会の開催にあたっては、日本土壌動物学会より大会補助金の交付、沖縄国際大学よりシンポジウム・学会等助成金の交付及び会場使用料の免除措置を受けた。大会運営にあたり琉球大学の佐々木健志先生よりご助言を頂いた。横浜国立大学の澄田智香氏には大会事務局の業務にご助力頂いた。ウェブサイトの管理は大久保慎二氏に行って頂いた。大会懇親会には沖縄国際大学 琉球芸能文学研究会の皆様のご協力を頂いた。エクスカッションには、島袋徳正先生、與儀春樹先生にご協力頂いた。